

消火器を見つけるのが難しい夜間には、以下の対策があります。

① 消火器の位置を確認：

事前に消火器の場所を確認し、覚えておくことが重要です。特に、家や職場のどこに設置されているかを把握しておきましょう。

② 照明の確保：

消火器の近くに非常灯や懐中電灯を設置しておくこと、停電時でも見つけやすくなります。

③ 反射テープの使用：

消火器やその周辺に反射テープを貼ることで、暗闇でも光を反射して見つけやすくなります。

④ 定期的な訓練：

消火器の使い方や場所を定期的を確認する訓練を行うことで、緊急時に迅速に対応できるようになります

①②③④を「あかり君」1台で対策！

「LED発光」させることで解決！

停電時の視認性アップはもちろん、
普段から目立つことが予備知識としての効果に繋がる



＝「そこに消火器がある」

潜在的な意識を日々増していくことを期待できます。

事業について

この事業は、火災発生時に初期消火における消火器具の重要性から推進いたしております。平成26年版「火災の実態」（東京消防庁発行）では、消火器具が使用された現場の7割以上で効果があったという報告が記載されています。

しかし、消火器が配置されるべき場所は、日中は明るい場所に設置されていても、夜間や照明消灯後には消火器の設置場所が暗く目立たなくなってしまうこともあります。いざという時に役に立てられないようでは設置している意味がありません。

この問題解決策として、設置場所を照明で明るく照らし続ければよいのですが、火災や災害によっては停電なども考えられるため、単純に解決とはなりません。

そこで、消火器標識そのものを電気エネルギーで「LED発光」させることで解決できると考えました。もちろん停電時の視認性アップにつながることで、さらには普段から目立つことが予備知識としての効果に繋がる＝「そこに消火器がある」という潜在的な意識も日々増していくことを期待できます。この事業を防災設備普及の一環とも位置づけ推進するにあたり、火災の発生時の初期消火の効率も増し、その結果人命や財産の保護に繋がることを期待するものであります。